



美容ジャーナリスト12人の連載リレ

ビューティ界の「今」も、「ヒト」【モノ】【コト】のテーマにあわせてわかりやすくレポート。美容ジャーナリストの本音もわかる!? 連載企画。

Vol. 55
ヒト
モノ
コト

この人の美容ノート、ちょっと拝見

加藤智一さんが語る、美容医療と化粧品との上手な付き合い方

進化する化粧品と美容医療で
“期待以上に美しく”

先日、デスクの引き出しを片付けていたら、さまざまなカードに混ざって期限切れの免許証が出てきた。「こんなところに」と思いながら免許証の写真を見た瞬間、はっと驚いて椅子から転げ落ちそうになった。「あれ、こんな顔だったっけ?」。免許証の撮影日を見ると、平成18年と記載されている。「ということは……6年前。なのに、今よりも老けてる!?」というのが正直な感想だったからだ。

当時は勤めていた出版社から独立した直後。朝晩のスキンケアは欠かさず行なって



加藤智一

美容ジャーナリスト

【Popstar】(丸川書房 専務)、【25ans】(ハースト 小冊子出版社)など、女性誌の美容情報誌で2005年に独立。現在は女性誌・男性誌・WEBのほか、中国のファッション誌「美様」の連載など、アジアにも活動の幅を広げている。自身のカラーリング事情にも詳しく、講座や製品開発等のコンサルティングも行う。(ブログ)美肌百鬼 bhada100ka.com

いたはずなのに、免許証の写真は今よりも全体的に活がない感じで、明らかに加齢感が出ている。髪も今より短いせいか、若干オジサン風でもある。

では、当時よりも今の顔が若返っている気がするのなぜか。その理由は、30代半ばから受け始めた美容医療にあるかもしれない。振り返れば、今までの6年間で、さまざまな美容医療を体験取材として受けていた。ヒゲのレーザー脱毛を始め、ヒアルロン酸やボトックス注入。頬をリフトアップするスレッド美容鍼や、小顔と美歯を同時にかなえる“小顔矯正”など、女性誌で美容担当をしていた頃も含めると、かなりの美容医療を経験していた。それらの施術効果を得ていくうちに、顔の下半分がすっきりしたラインに整い、目の下のくまや、眉間や額のシワへこみが解消。その結果、今のほうが6年前よりも若々しい顔立ちに改善したのだろう。

加えて、最新のテクノロジーを搭載した化粧品を使い続けてきた効果も大きいとい



左から、ヒアルロン酸注入も、顔、眉間など“面”ではなく、“面”で行なうことで、効果より見た目と美をつける。夜寝る前にも行う。美容医療の現場。



える。美容医療ではなかなか解消できないのが“ちりめんジワ”や、顔全体の乾いた印象だが、近年の遺伝子レベルにまで研究が進んでいるスキンケアのおかげで、そうした肌の悩みはほとんどない。高機能な日焼け止めを過年使用していることで、大きなシミとも無縁だ。また、美容皮膚科で処方される化粧品やイオン導入用ローションなど、美容医療と化粧品のボーダレス化が進んでいることで、ホームケアでも期待以上の美肌効果を得られるようになった。

そう考えると、肌のキメを整えて、滑らかな状態に保ってくれる化粧品やメイクアップと、レーザーやフィラー注入系な

ど、エイジングに対しての一通りの施術メニューが揃う美容医療を併用すれば、歳を重ねても自分にとって望ましい外見に整えられる時代になったといえる。

数年前、某化粧品会社のキャッチコピーで、シャロン・ストーンが「20歳の時より、いま、美しく」と語りかけていた当時は、いまいその実感がわかなかった。しかし、化粧品と美容医療の加速的な進化で、期待以上の若々しさが手に入る今なら、そのフレーズに納得できる。あの頃よりも若返っているような、生き生きとした印象を、単なる願いではなく、リアルに実現できる時代が到来したので。